

# エリック・カール展 はじまりは、はらぺこあおむし

## 一読書コーナー 選書リスト

川上 洋平 (book pick orchestra / 選書家)

みなさん、展示はいかがだったでしょうか？

エリック・カールの作品はもちろん、絵本というもののすばらしさをあらためて感じられた方や、もしかしたらすぐに絵が描きたくなくなってしまった、という方もいるかもしれません。

エリック・カールと『はらぺこあおむし』をはじめとする彼の活動は、長年にわたって日本の私たちを楽しませてきてくれました。小さい頃、彼の絵本の影響を受けた方も多いかと思います。展示の最後「読書コーナー」では、エリック・カールの絵本と彼との関連性を感じる絵本を手にとれるようにしました。

『はらぺこあおむし』から始まった「これまで」の作品たちの鑑賞体験が、この最後のコーナーで、また新しいなにかの「はじまり」になったらと思いながら、「読書コーナー」の絵本を選ばせていただきました。関連性を感じる絵本については、エリック・カール作品の特徴からいくつかのテーマを設けて、ピックアップしています。ほとんどの絵本は本屋さんで購入できます。いくつか品切れ・絶版の絵本もありますが、こちらでも近くの図書館では手に取れると思います。もし気になった絵本があれば、探してみても家でゆっくり読んでもらえたらうれしいです。

### 1. エリック・カールと深く関係している絵本

こちらでは、エリック・カールが大好きだった絵本や、個人的に交流があった作家の絵本などから選びました。彼がグラフィックデザイナーだったことを感じさせるものもあれば、意外に作風が異なるものもあつたりするのは面白いところです。名作の誉れ高さ絵本が多いですが、じっくり手に取ると、いまなお新鮮な驚きに満ちています。

#### ● かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック (作) じんぐう てるお (訳) 富山房

#### ● ひとあし ひとあし

レオ・レオニ (作) 谷川俊太郎 (訳) 好学社

#### ● ノアの箱舟

ハインツ・ヤーニツシュ (文)  
リスベート ツヴェルガー (絵) 池田 香代子 (訳)  
ビーエル出版

#### ● ゆきのひ

エズラ・ジャック・キーツ (作)

きじま はじめ (訳) 偕成社

#### ● 野菜とくだものアルファベット図鑑

ロイス・エイラト (作) 木原 悦子 (訳)  
あすなろ書房 品切れ・絶版

#### ● ことば

アン ランド、ポール ランド (作) 長田 弘 (訳)

ほるぷ出版

### 2. カール・オナーズ受賞作家の絵本

この展覧会の主催のひとつでもある「エリック・カール絵本美術館」は、カール夫妻が日本を旅したこともきっかけとなって、アメリカで初めてできた絵本専門美術館です。美術館では、毎年、絵本の分野で功績ある人々に「カール・オナーズ」という賞を表彰しています。ここにはアーティスト賞に選ばれた作家の絵本の中からいくつか選びました。

#### ● おとうさんのちず

ユリ・シュルヴィッツ (作)

さくま ゆみこ (訳) あすなろ書房

#### ● ほんときこうの日

レイン・スミス (著)

青山 南 (翻訳) ビーエル出版 絶版

#### ● はるかな湖

アレン・セイ (作) 椎名 誠 (訳)

徳間書店 重版未定

#### ● 西風号の遭難

クリス・ヴァン・オールズバーグ (作)

村上 春樹 (訳) 河出書房新社

#### ● アンジェロ

デビッド・マコーレイ (作)

千葉 茂樹 (訳) ほるぷ出版

#### ● セブきのねずみ

エドヤング (作) 藤本 朝巳 (訳) 古今社

### 3. エリック・カールと同時代の日本作家の絵本

エリック・カールは、1929年生まれ。この年は「暗黒の木曜日」と呼ばれる世界恐慌の勃発の年でもあり、そのあと世界は戦争の時代へと突入していきます。今回の展示にもあったように、彼の絵本を色鮮やかに輝かせている背景には、戦争も含めた時代を生き抜いた経験があります。こちらでは同じ時代を生き抜いた日本の絵本作家たちの作品を選んでみました。有名な作品が多いですが、背景を加味するとまた新たな発見があるように感じます。

- **あんぱんまん** やなせたかし（作） フレーベル館
- **あいうえおの本** 安野 光雅（作） 福音館書店
- **ぼくのくれよん** 長新太（作） 講談社
- **いらっしゃい** せな けいこ（作） 童心社
- **もけらもけら** 山下洋輔（文）中辻悦子（絵）  
元永定正（構成） 福音館書店
- **ぐるんぱのようちえん**  
西内 ミナミ（著） 堀内 誠一（絵） 福音館書店

### 4. 絵を描く楽しさを感じる絵本

エリック・カールの作品の多くからは、絵をかくことのたのしさ、絵の自由さのようなものが、のびのび生き生きと感じられてきます。『えを かく かく かく』のように、彼が晩年に自身のことを振り返って描かれた作品もあります。ここでは、日本の現代の作家の中から、彼と同じように、絵をかくたのしさ、自由さが伝わってくるような絵本を選びました。

- **トラタのりんご** nakaban（作） 岩波書店
- **ちょうちょ ちょうちょ** きくちちき（作） 偕成社
- **よかったなあ**  
まど・みちお（文） あずみ虫（絵） 理論社
- **みちひきみちかけ** ミロコマチコ（作） 小学館
- **みち** 阿部海太（作） リトル・モア
- **はっぴいさん** 荒井 良二（作） 偕成社

### 5. コラージュを活かした絵本

エリック・カールはさまざまな手法で絵本を描きますが、その中でも特に印象的なのが、紙や布などを貼り合わせて画面を構成する「コラージュ」という技法です。彼はコラージュの材料となる薄紙をあらかじめ作って、あとから選んで使うという独特な手法をとりますが、他の作家たちはどのようにコラージュしているのでしょうか。ここではコラージュの技法を活かした絵本を選びました。

- **わくせいキャベジ動物図鑑** tupera tupera（作） アリス館
- **きみはたいせつ** クリスチャン・ロビンソン（作） 横山 和江（訳） ビーエル出版
- **これがほんとの大きさ** スティーブ ジェンキンス（作） 佐藤 見果夢（訳） 評論社
- **こどもってね……** ベアトリーチェ・アレマーニャ（作） みやがわ えりこ（訳） きじとら出版
- **なにかいいことあった？** ミーシャ・アーチャー（作） 石津 ちひろ（訳） ビーエル出版
- **いろいろみびりびりぴったんこ** 松田奈那子（作） アリス館 品切

## 6. 斬新さを感じる絵本

エリック・カールの絵本には、鮮やかな色彩や大胆な構図といった、ポスターのようなグラフィカルな表現も印象的なのですが、さらに紙に仕掛けがしてあったり、一部特殊なインクを使っていたり、果てはページをめくると音が鳴ったり!まるでメディア・アーティストのような斬新ささえ感じます。ここでは、テーマや描き方、表現方法など、さまざまに斬新さを感じる絵本を選びました。

### ● りょこう

麻生知子(作) 福音館書店

### ● グランド・フィーリング・ホテル

リディア・ブランコヴィッチ(作)  
tupera tupera(訳) 東京書籍

### ● 1がかけたよ

ウー・ヤーナン(文) リウ・ロンシャ(絵)  
木坂涼(訳) 岩崎書店

### ● チリとチリ

どいかや(作) アリス館

### ● にっげろー!

katakata(作) 主婦の友社

### ● うみへやまへ

三浦太郎(作) 偕成社

## 7. こどもも大人にも向けられた絵本

絵本は、こどもだけのものではなく、大人のこころも大きく動かします。エリック・カールは、作品が学校への橋渡しとなることを意識していましたが、大人にとっても、絵本はさまざまな領域への橋渡しになるものだと思います。ここでは、こどもだけでなく、大人にも新たな世界へ向かう橋をかけてくれるような絵本を選びました。

### ● かべのむこうになにがある?

ブリッタ・テッケントラップ(作) 風木一人(訳)  
ビーエル出版

### ● どこいったん

ジョン・クラッセン(作) 長谷川義史(訳)  
クレヨンハウス

### ● みえないおしごと

とくながけい(作) 中央公論新社

### ● 夜明けをまつどうぶつたち

ファビオラ・アンチョレナ(作) あみのまきこ(訳)  
NHK出版

### ● おやすみのあお 植田真(作) 佼成出版社

### ● しぜんのおくりもの

イザベル・シムレール(作) 石津ちひろ(訳)  
岩波書店

今回絵本を選ばせていただきながら、あらためて絵本の世界の多彩さや素晴らしさに目を開かれました。数に限りがある中で、泣く泣くここには配置できなかった本もたくさんあります。今回のテーマや絵本をきっかけに、みなさんそれぞれのお気に入りの絵本の世界を広げていってもらえたら、とてもうれしく思います。

「わたしは一人一人のこどものために本を書いていると思っています。そして、そのこどもは私、私の中のこどもなのです。」

エリック・カールにこのような言葉があるように、どんなに大人になっても、絵本を手にしてしまうと「私の中のこども」がムクムクと顔を出してきて、ワクワクたのしく、心おどるような気分になります。ときには、暗い感情を描いた絵本もありますが、そういった絵本たちも前を向くための「手がかり」として誰かが形にしてくれたものです。

どんなに本を手にするのが苦手な人にも、絵本はやさしく寄り添ってくれます。ふと、時間に、心に、隙間ができたときには、ぜひ絵本を手にとってみてください。そこから何か新しく「はじまる」かもしれません。

この選書リストと鑑賞者の皆様へのメッセージは、東京都現代美術館「エリック・カール展 はじまりは、はらぺこあおむし」のために作成されたものです。

※無断転写、転載、複製を禁じます/2026年4月25日発行